

大阪府介護生産性向上支援センター
伴走支援プログラムDAY 5（成果報告）

介護老人保健施設パークヒルズ田原苑による 生産性向上の取り組み報告

2025年 3月11日

【事業所名】医療法人和幸会 介護老人保健施設パークヒルズ田原苑

01 事業所概要

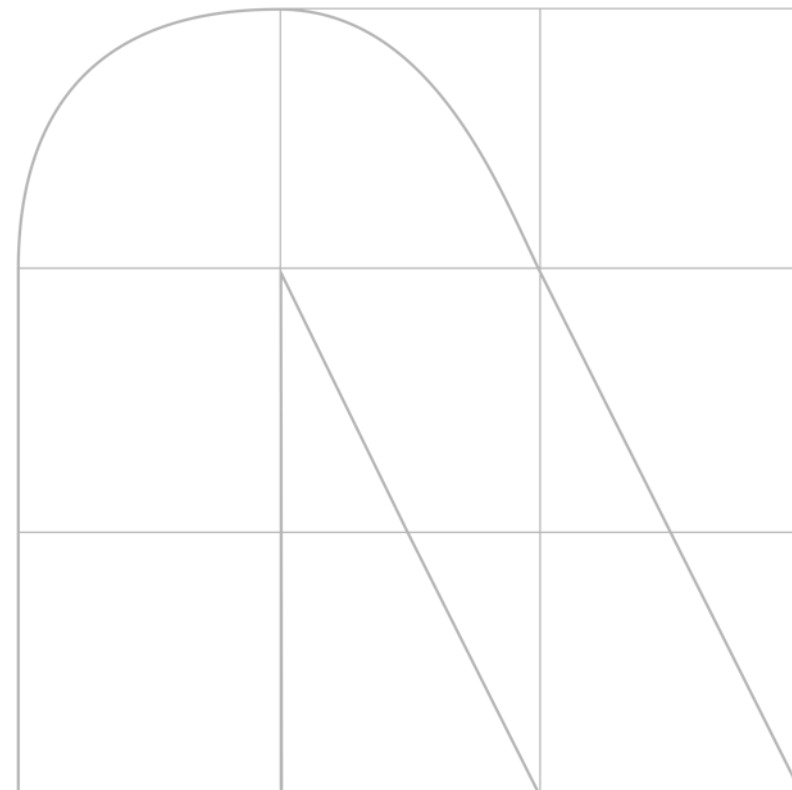
02 取組概要・流れ

03 取組結果・成果

04 取組のまとめ

01

事業所概要



01 事業所概要

- 大阪府四條畷市上田原613番地
- 開設日：平成8年12月6日
- 入所：100名
 - 一般療養棟：50名
 - 認知症専門棟：50名
 - 超強化型施設
- 通所：40名



01 フloor見取り図



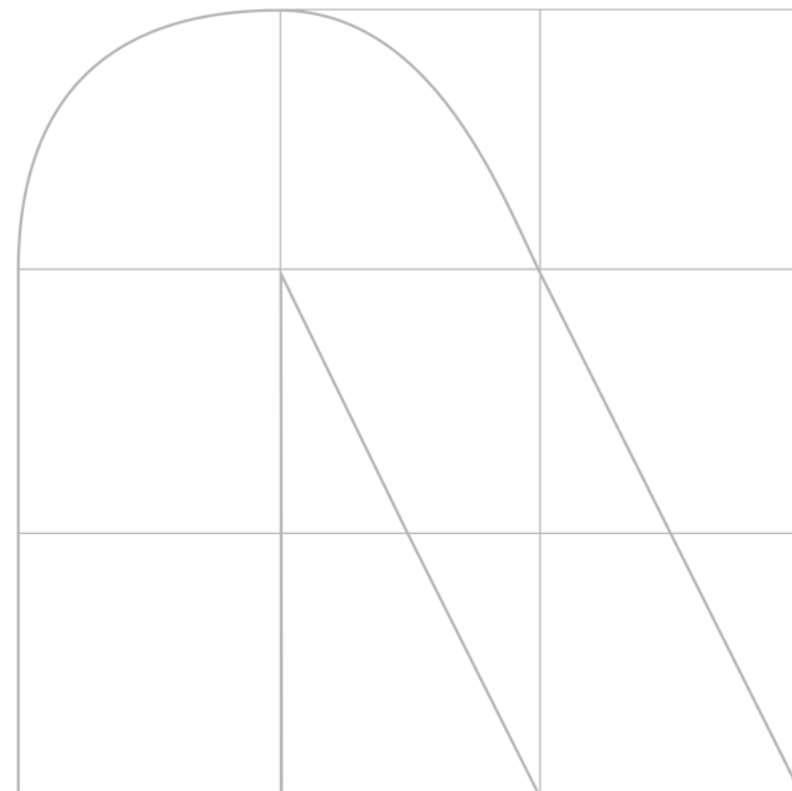
従来型多床室中心

病院併設型(精神科)

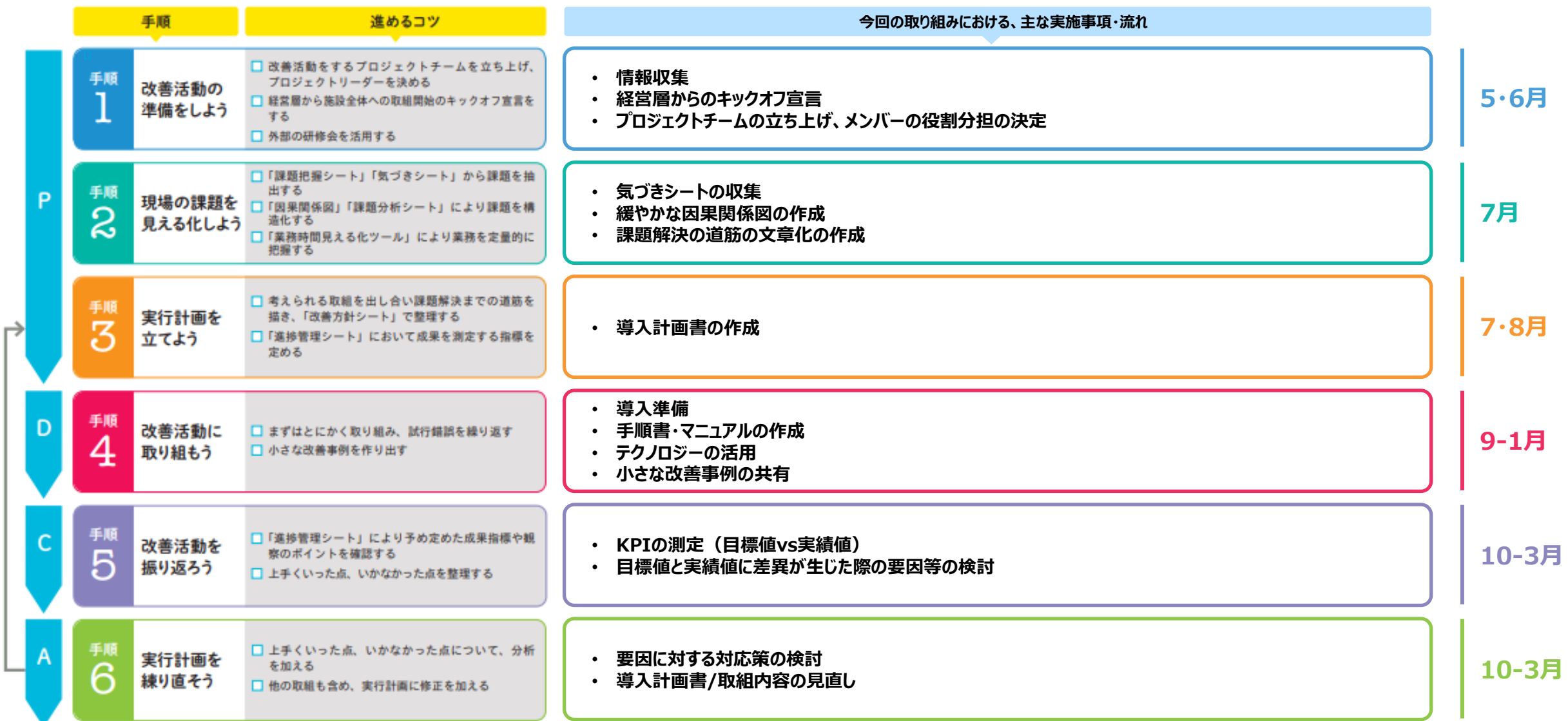
サービスステーションから縦列の部屋には見守りが必要な方、横列には自立度の高い方が入ることが多い

02

取組概要・流れ

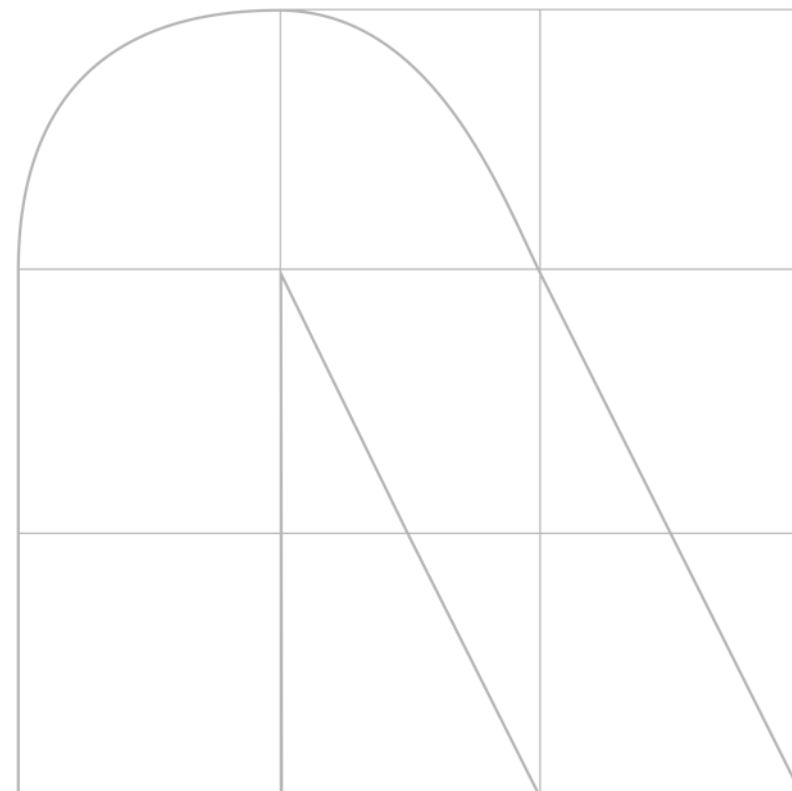


02 取組概要・流れ



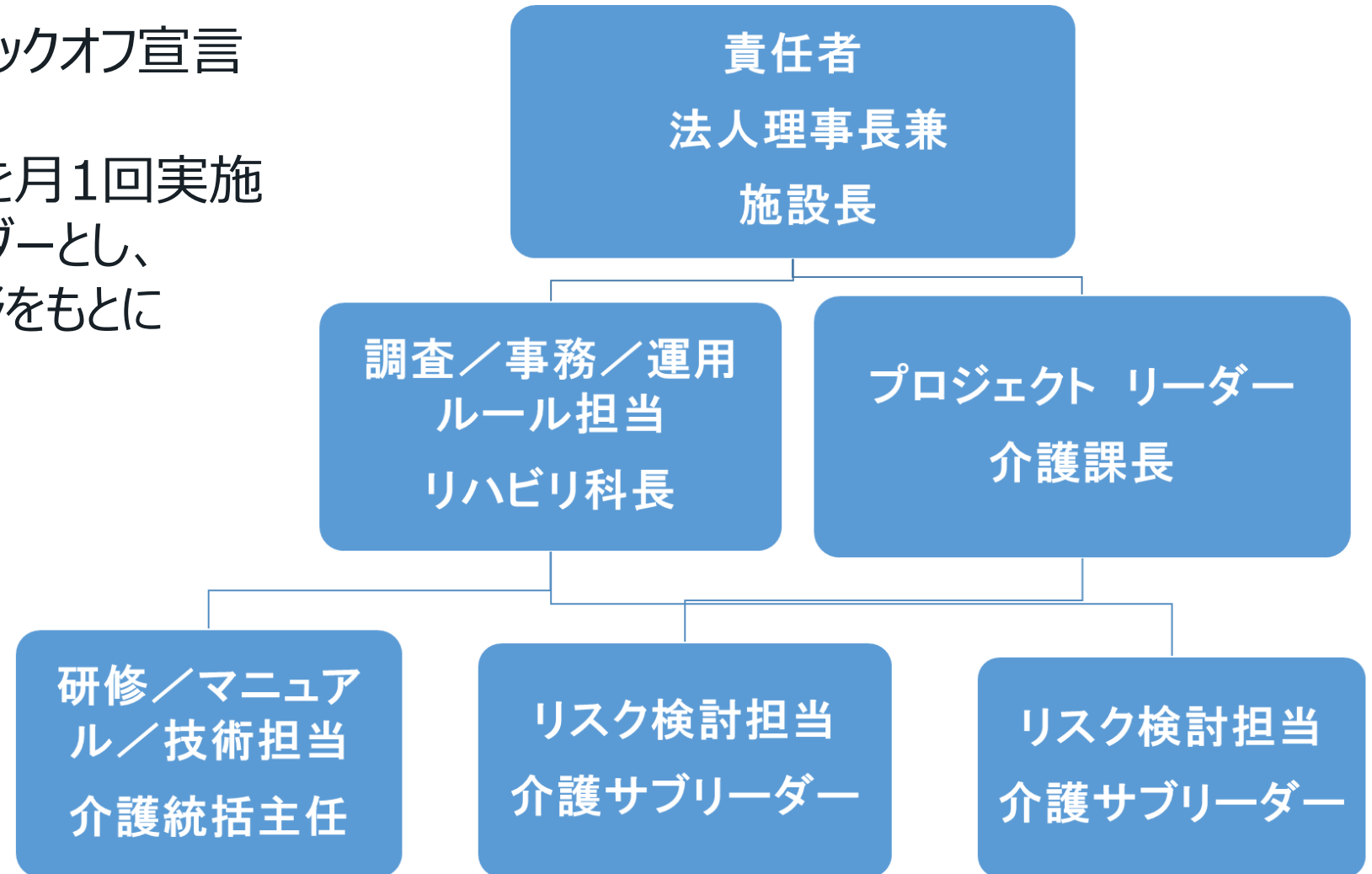
03

取組結果・成果



【手順1】改善活動の準備をしよう

- 施設長より運営会議にてキックオフ宣言
- 生産性向上委員会を設立
業務効率化に向けた会議を月1回実施
- 介護課長をプロジェクトリーダーとし、
それぞれの特徴や得意分野をもとに
役割を決定



03 取組結果・成果

【手順2】現場の課題を見える化しよう

- 職員に困りごとシートを配布し、施設の課題を洗い出す

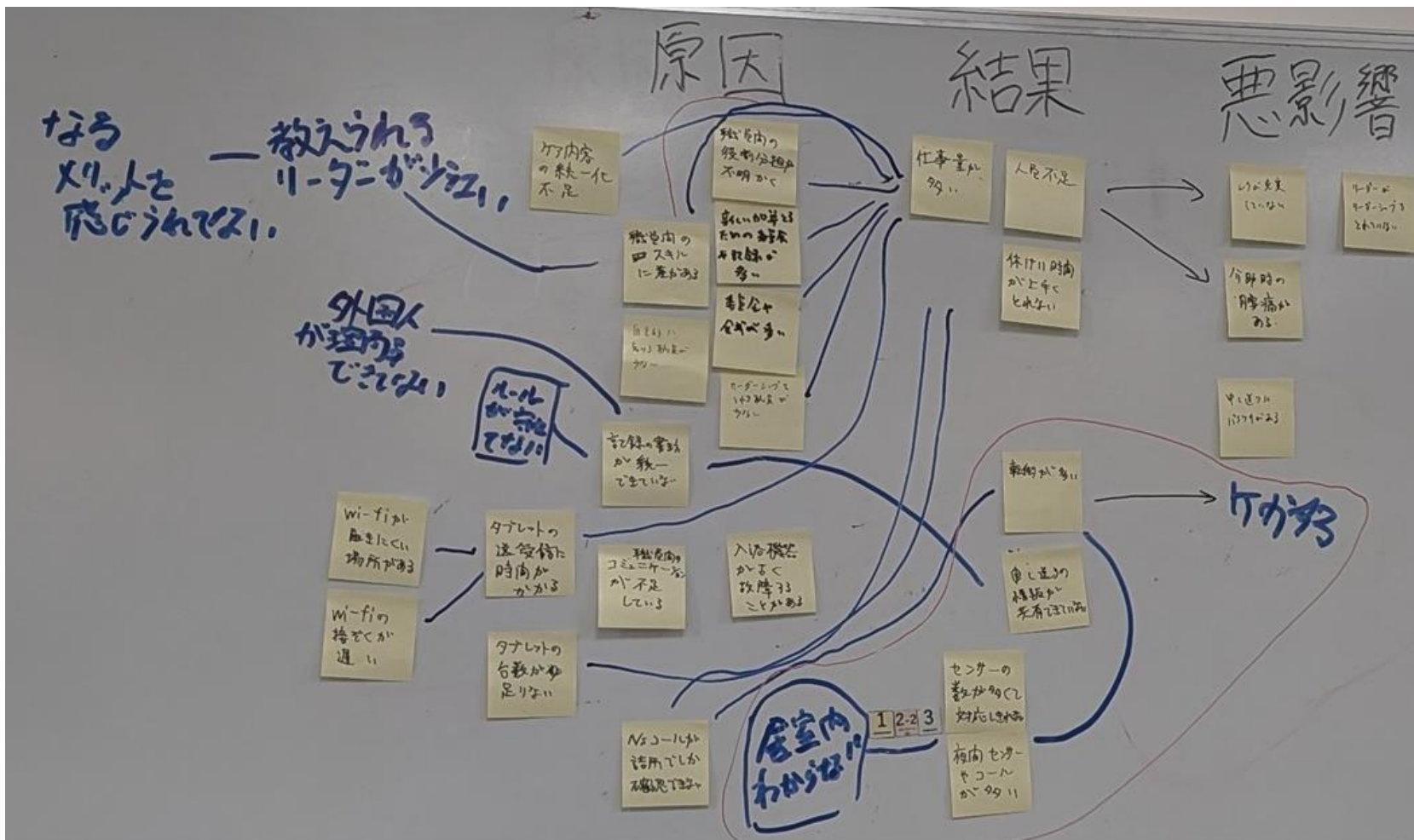


課題を
7項目に分類



職場環境の
整備に課題が
多く挙がる

- 抽出した課題から因果関係図を作成



・通信環境が不良

- ・内線でのやりとりなど
情報共有に時間がかかる

・居室での転倒が多い



まずは通信環境を整備し
今後のICT機器導入に
向けた準備をする

【現場課題と解決の道筋】

既存の電子カルテや見守り機器の使用をWi-Fi環境が不十分な状態で使用している。そのため機器使用時のタイムロスや業務負担感が強くなっている。Wi-Fi環境を整えることで、既存の機器の使用がスムーズになり職員間の精神的負担感が軽減され、情報の共有がいち早く行える。

1. 本プロジェクトの目的

Wi-Fi環境を整備することで既存の**非接触型生体センサー**が**全ての部屋で使用することができる。**

また介護ソフトでタブレットを使用した記録時の送受信にかかる時間が改善されることで、職員の**記録業務**にかかる**時間が削減され負担が軽減される。**

2. 導入する介護ロボット・ICT

種類：Wi-Fi環境 製品名：buffalo

導入場所：施設の各フロア

【介護ロボット・ICT導入成果を測るKPI】

1. KPIを設定する文節
職員の精神的負担が軽くなる
2. 設定したKPI
職員の業務ストレス度合い
3. KPIの測定方法
5段階評価
4. KPIの測定ピッチ
導入前後

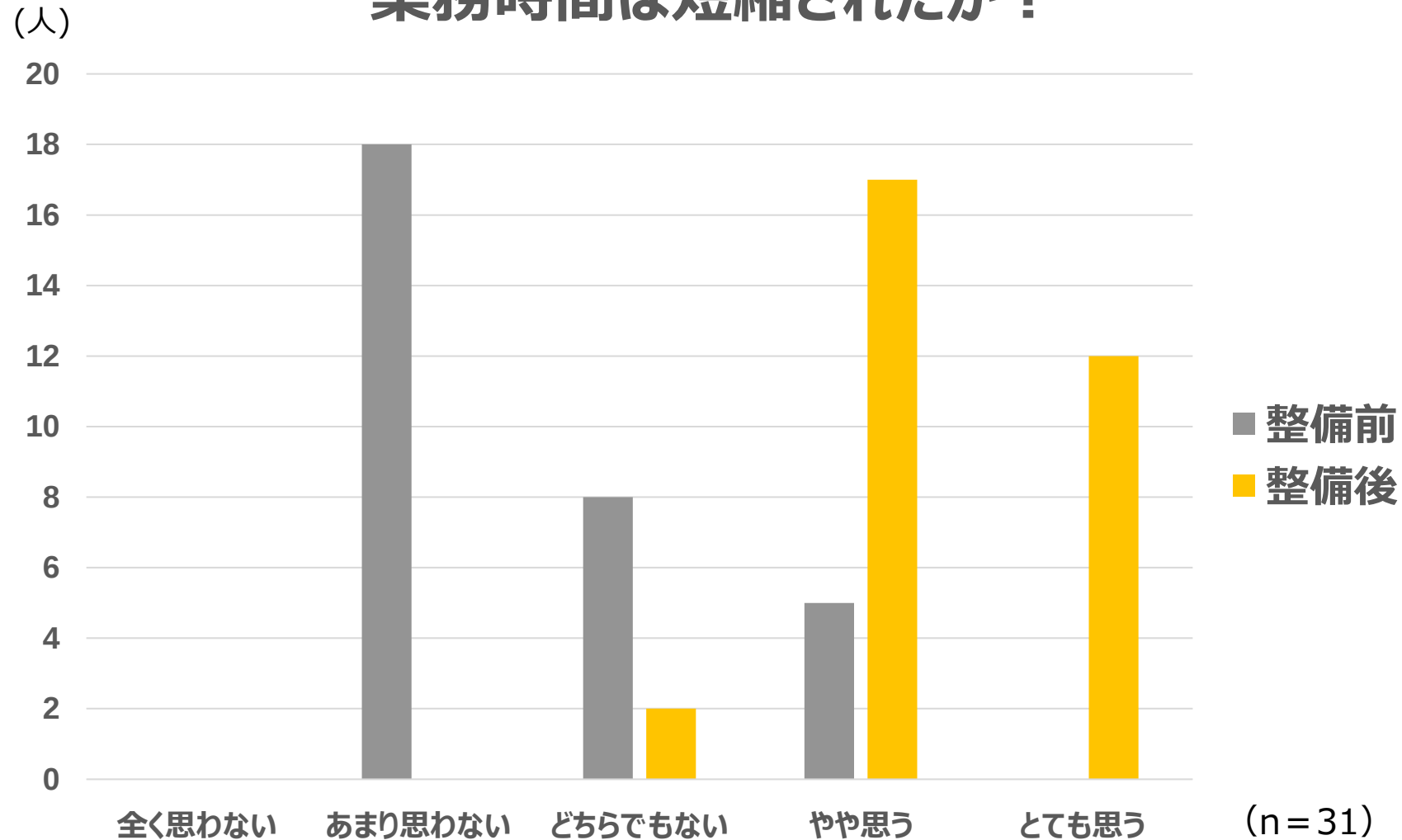
- 現在導入している介護記録ソフトをより活用できるように、ベンダーに来てもらい、質疑応答の機会を設けた。
- 記録方法の工夫：お気に入り機能の活用など、スムーズに閲覧・記録できる方法を周知した。
- 紙で記録していたものを、介護記録ソフトで入力できるように、入力場所や時間などを検討して周知した。

- 巡視チェックを紙媒体からタブレットへの入力に変更
- 服薬チェックを、タブレットで入力しやすいように、入力欄を作成
- 委員会で話し合って決めたことを、介護主任、介護リーダーが現場に伝えて、ルールを決めた

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

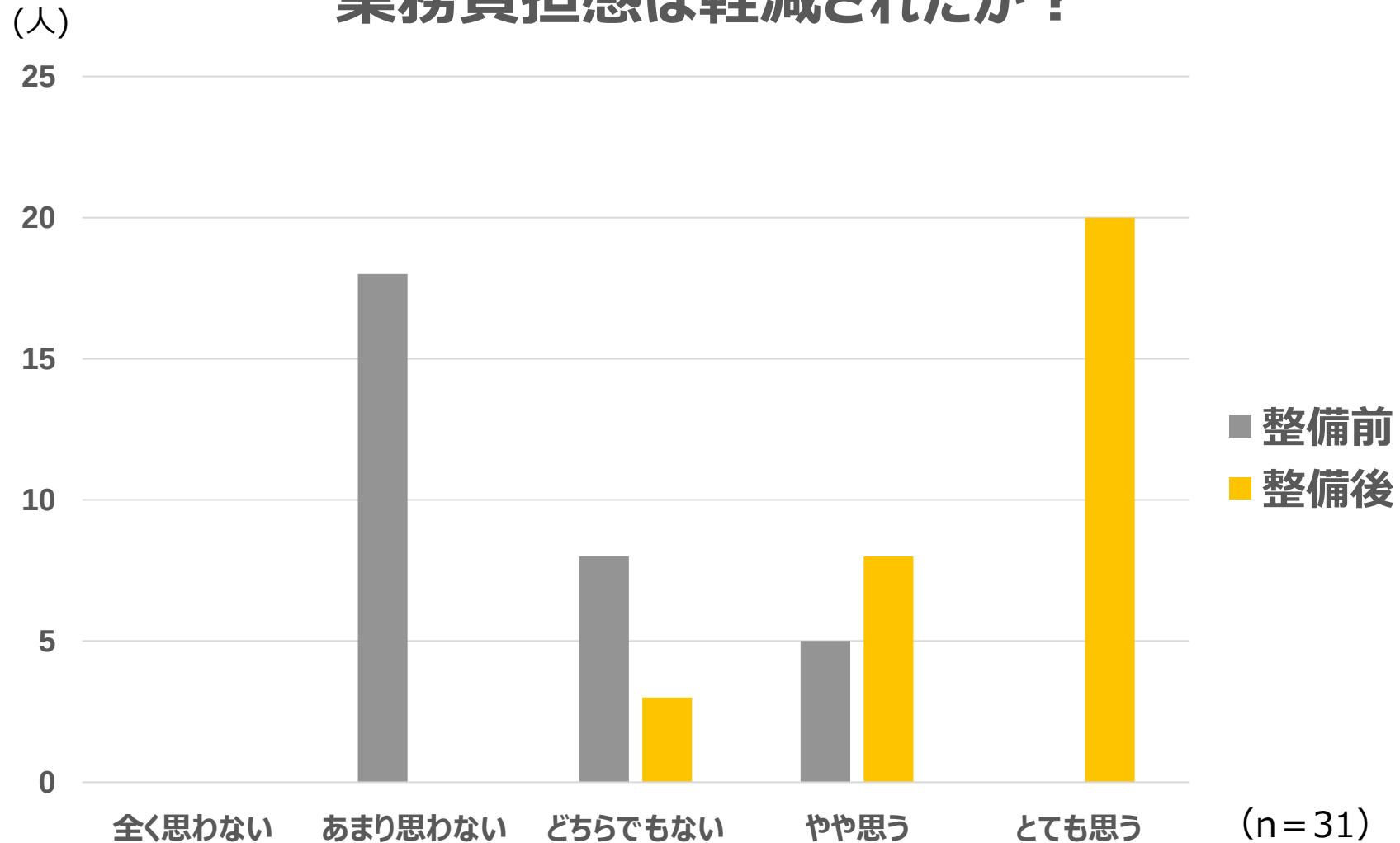
業務時間は短縮されたか？



03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

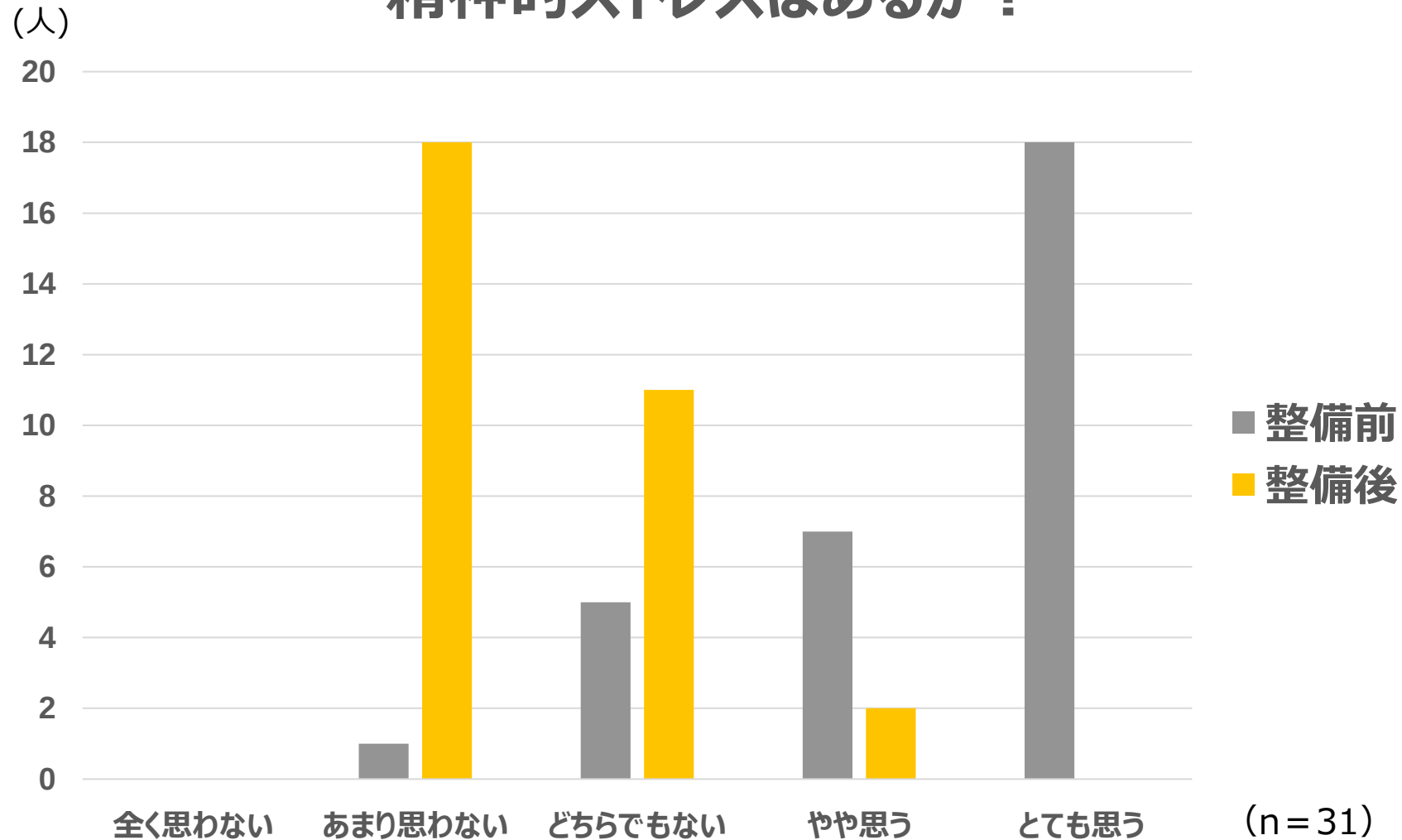
業務負担感は軽減されたか？



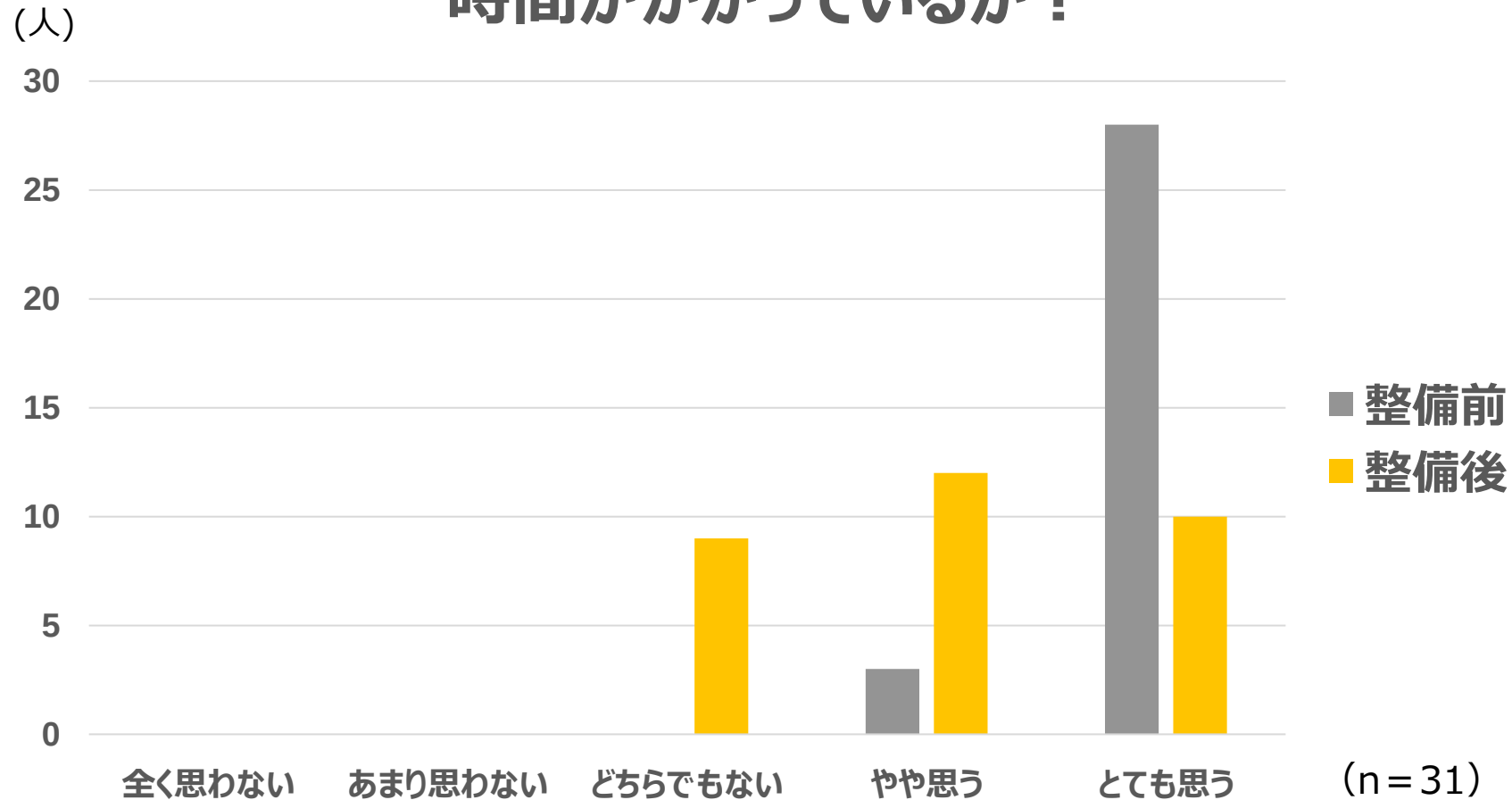
03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

精神的ストレスはあるか？

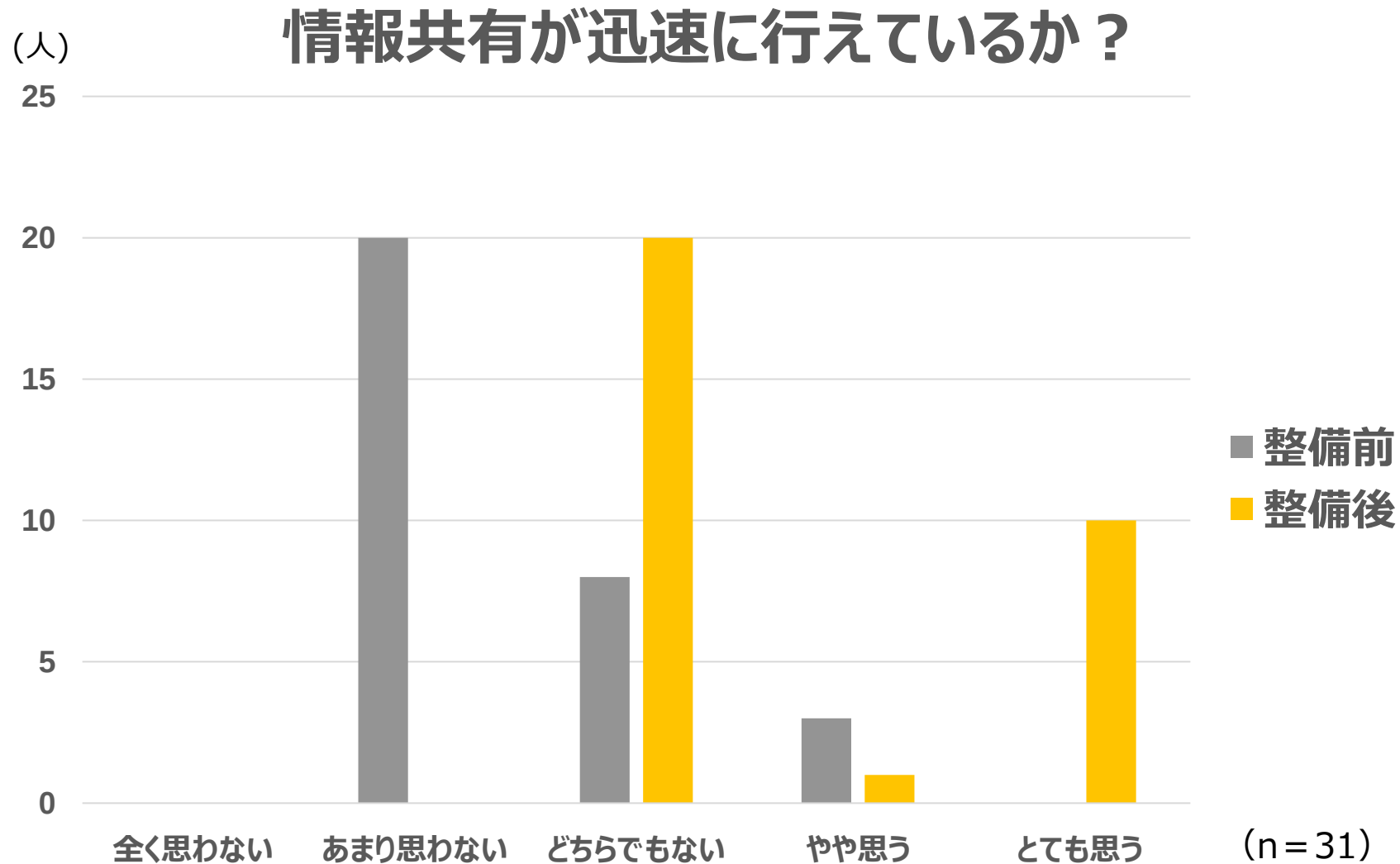


電子カルテのタブレット送受信に 時間がかかっているか？



03 取組結果・成果

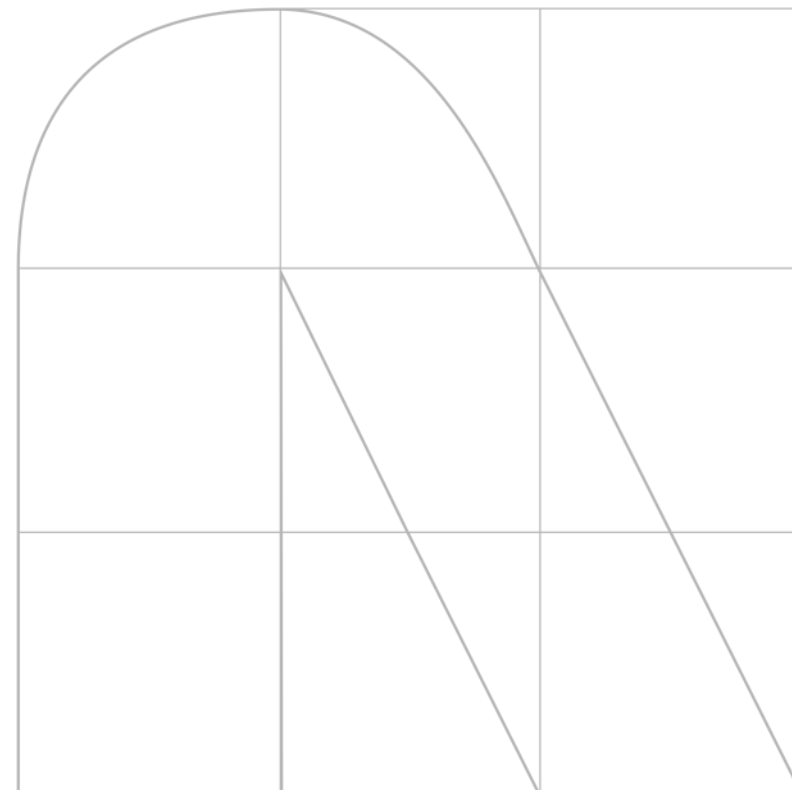
【手順5】改善活動を振り返ろう



- 毎月の生産性向上委員会にて、記録の効率化や運用がうまく行っているかどうかについて適宜確認する
- 介護記録ソフトの活用について、新たな情報がベンダーからあれば、それを共有する
- 非接触型生体センサーの活用状況について確認する
- 現場から挙がってきた意見に対して、実現可能な運用ルールを決めて、実施してもらい、再度評価を行うなどPDCAサイクルを回す

04

取組のまとめ



- Wi-Fiが繋がりがやすくなり、記録入力へのストレスが軽減できた。
その分、利用者と接する時間が増えた。
- Wi-Fiが全ての部屋に届くようになったため、非接触型生体センサーの活用時に、部屋を選ばなくても、使用できるようになって良かった。

- ・現場の課題を見える化し、一つずつ課題解決に向けた取り組みを行っていくことの重要性を感じた。
- ・取り組みをすすめていくためには、経営層と現場双方の理解が必要。
何のために、この取り組みをするのかといった目的の理解が大切だと感じた。

【今後の方針】

- ・課題抽出であがっていた、「転倒」と「タイムリーな情報伝達」という大きな課題に対して、介護ロボット・ICT機器を導入することで、課題の解決を図っていきたい。
- ・機器の選定や運用については、他施設の取り組みを参考にしてすすめていきたい。

NTT DATA

株式会社NTTデータ経営研究所

Lighting the way
to a brighter society